
令和5年度
全国学力・学習状況調査

調査結果報告書
指導の改善策

旭川市教育委員会

はじめに

旭川市教育委員会では、児童生徒の確かな学力の育成に向け「令和5年度旭川市確かな学力育成プラン」を策定し、「学びを深める授業づくり」、「落ち着いた学級づくり」及び「望ましい学習習慣づくり」の3つの指導の重点を示して、各学校において、学力向上に向けた共通した取組を推進するよう努めております。

このような中、令和5年7月と8月に、国から令和5年度全国学力・学習状況調査結果の提供を受け、本調査の実施要領に示されている「調査の目的」及び「調査結果の取扱いに関する配慮事項」などを踏まえ、この度、本市の結果を報告書として取りまとめました。

本報告書は、教科では、「国語」、「算数・数学」、「英語」の領域等別や設問ごとの正答や誤答の状況を把握し、成果と課題を明らかにするとともに、小中連携・一貫教育の視点から、9年間で身に付けさせたい力を「9年間の視点」として示しております。児童生徒質問紙調査では、質問項目について、国立教育政策研究所の分類をもとに、本市の3つの指導の重点ごとに整理し、回答状況や各教科の正答率と学習習慣・生活習慣との相関関係について分析しております。

本調査において課題が見られた設問や、改善が必要と考えられる質問項目等については、各学校の指導や取組の一層の充実に向け、改善策を作成するとともに、授業における指導の方法やポイント等をまとめた「旭川市学力向上授業ポイント集」を作成するなどの改善を図りました。

また、課題となる設問については、児童生徒に確実な定着を図るため、授業等で活用できる「旭川市学力向上学習プリント集」を別冊資料として作成しました。

各学校においては、「令和5年度旭川市確かな学力育成プラン」を踏まえるとともに、本報告書及び、「授業のポイント集」や「旭川市学力向上学習プリント集」を十分に御活用いただき、児童生徒の学力向上に向け、継続的な検証改善サイクルを確立していただくことを期待します。

令和5年11月

旭川市教育委員会教育長

野 崎 幸 宏

〔目 次〕

1	調査の概要	…	1
(1)	調査の目的		
(2)	調査の対象		
(3)	調査事項及び手法		
①	児童生徒に対する調査		
②	学校に対する質問紙調査		
(4)	調査日		
(5)	調査に参加した学校数，児童・生徒数		
2	教科に関する調査結果の概要	…	2
(1)	小学校各教科	…	3
(2)	中学校各教科	…	4
(3)	小学校国語	…	5
(4)	中学校国語	…	6
(5)	小学校算数	…	7
(6)	中学校数学	…	8
(7)	中学校英語	…	8
3	教科に関する調査結果の課題の改善策		
(1)	国語 課題の改善策 1～4	…	9
(2)	算数・数学 課題の改善策 1～4	…	13
(3)	英語 課題の改善策 1～4	…	17
4	児童生徒質問紙調査結果の概要	…	21
(1)	質問項目の分類の考え方	…	21
(2)	分析結果の整理		
(3)	クロス集計		
(4)	旭川の子どもたちの概況	…	22
(5)	小学校	…	23
①	「学びを深める授業づくり」について		
②	「落ち着いた学級づくり」について		
③	「望ましい学習習慣づくり」について		
(6)	中学校	…	25
①	「学びを深める授業づくり」について		
②	「落ち着いた学級づくり」について		
③	「望ましい学習習慣づくり」について		
5	児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策		
(1)	生活習慣・学習習慣 課題の改善策 1～4	…	27

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- 小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

小学校：国語，算数

中学校：国語，数学，英語

国語，算数・数学，英語は，それぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

(イ)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日

令和5年4月18日（火）

※中学校英語「話すこと」に関する調査は，令和5年4月19日（水）～5月19日（金）の間に実施。

(5) 調査に参加した学校数，児童・生徒数

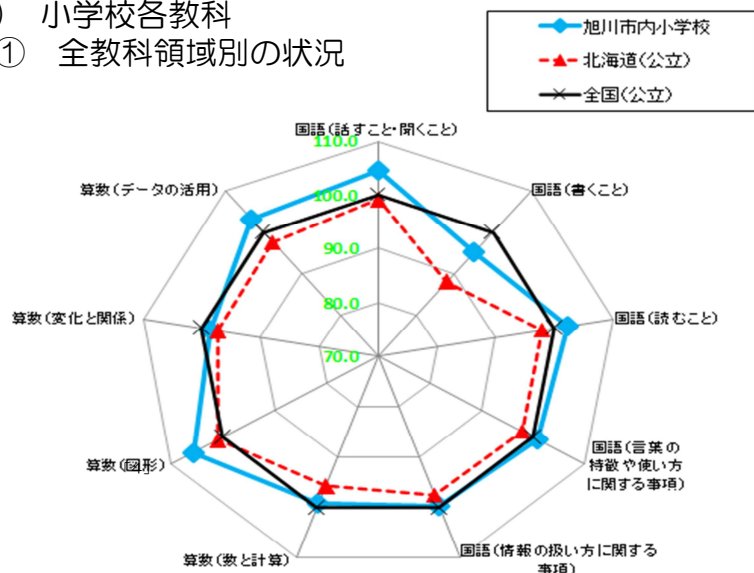
校 種	学校数	児童・生徒数
小学校	49校	2,244人
中学校	26校	2,144人

※児童・生徒数は，教科に関する調査及び質問紙調査のうち，回収した解答（回答）用紙が最も多かったもの

2 教科に関する調査結果の概要

(1) 小学校各教科

① 全教科領域別の状況



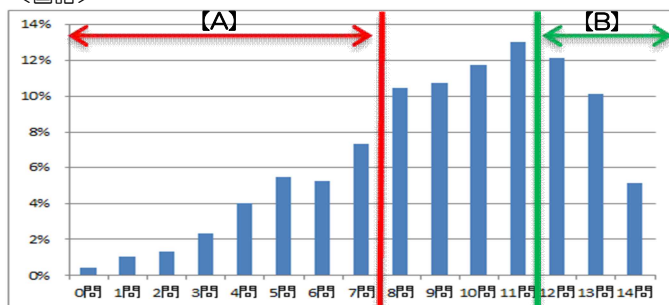
全9領域等のうち、国語の全ての領域、算数の全ての領域において全道を上回っており、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の3領域、算数の「図形」、「データの活用」の2領域において全国を上回っている。国語の「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」の2領域、算数の「数と計算」、「変化と関係」の2領域において全国を下回っている。

※ (本市の平均正答率) ÷ (全国の平均正答率) × 100で算出
※ 「」内の数は、対象問題数(領域等が重複する問題もあります)

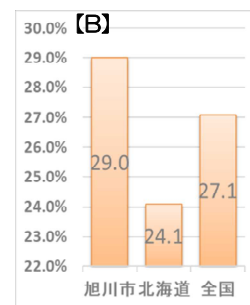
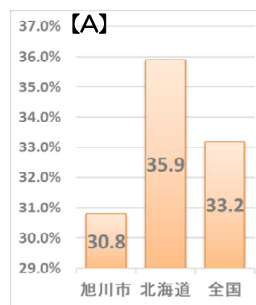
② 各教科の正答数の状況

ア 正答数の分布

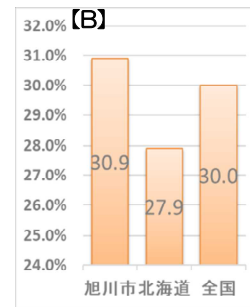
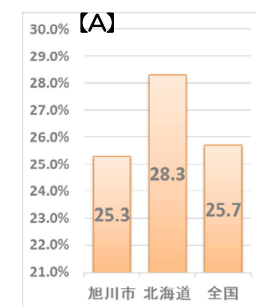
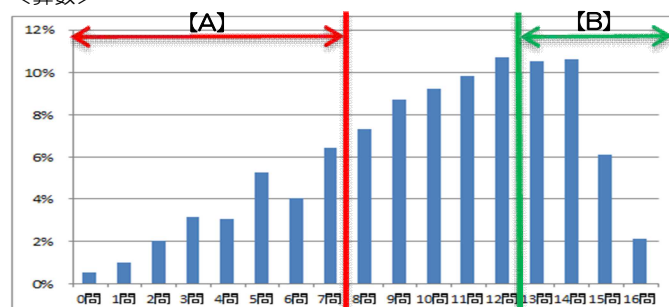
<国語>



イ 正答数の少ない層の割合 ウ 正答数の多い層の割合



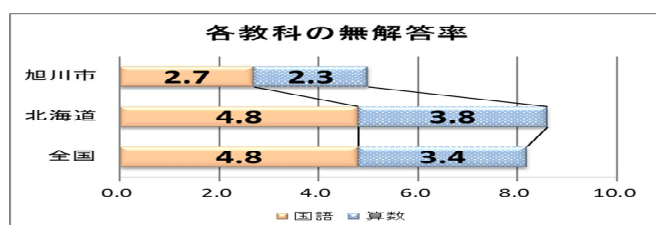
<算数>



- 国語の正答数の少ない層【A】に含まれる児童の割合は、北海道より5.1、全国より2.4少ない。正答数の多い層【B】に含まれる児童の割合は、北海道より4.9、全国より1.9多い。
- 算数の正答数の少ない層【A】に含まれる児童の割合は、北海道より3.0、全国より0.4少ない。正答数の多い層【B】に含まれる児童の割合は、北海道より3.0多く、全国より0.9多い。

※「正答数の少ない層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層(下位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。
※「正答数の多い層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層(上位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

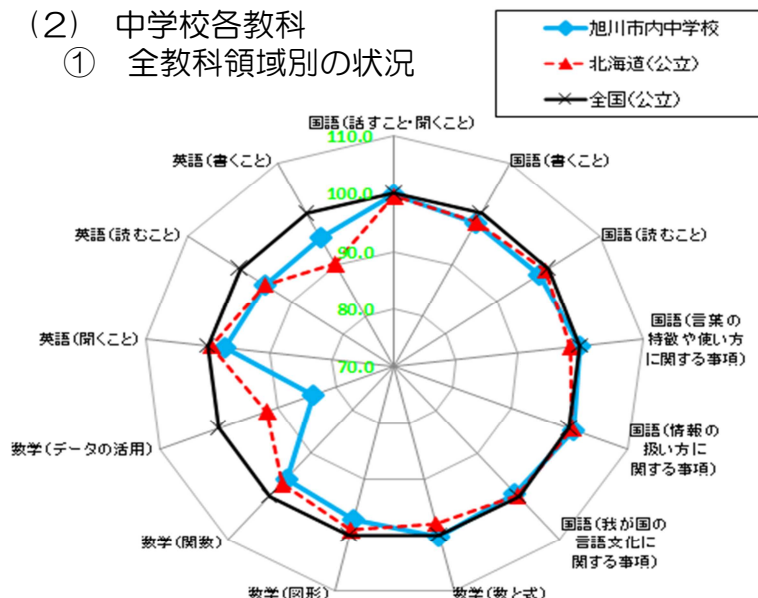
③ 無解答率の状況



- 国語については、無解答率が、全国及び北海道より2.1低い。
- 算数については、無解答率が、全国より1.1低く、北海道より1.5低い。

(2) 中学校各教科

① 全教科領域別の状況



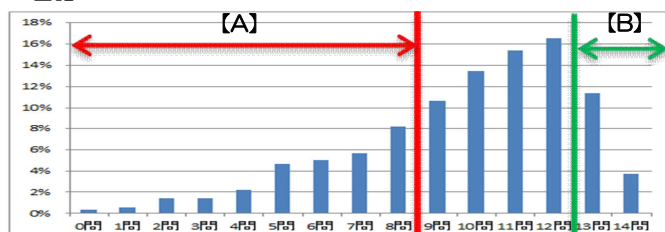
全13領域等のうち、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」の3領域、数学の「数と式」、英語の「書くこと」において全道を上回っており、国語の「情報の扱い方に関する事項」、数学の「数と式」において全国を上回っている。国語の「我が国の言語文化に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」の3領域、数学の「図形」、「関数」、「データの活用」の3領域、英語の「聞くこと」の領域において全道を下回っている。国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の5領域、数学の「図形」、「関数」、「データの活用」の3領域、英語の全ての領域において全国を下回っている。

※(本市の平均正答率)÷(全国の平均正答率)×100で算出
※「」内の数は、対象問題数(領域等が重複する問題もあります)

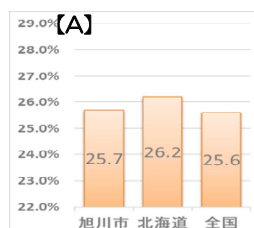
② 各教科の正答数の状況

ア 正答数の分布

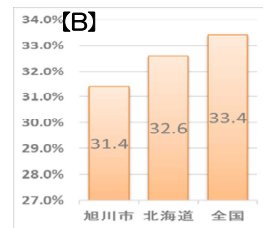
<国語>



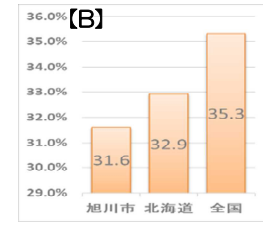
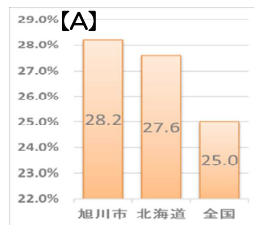
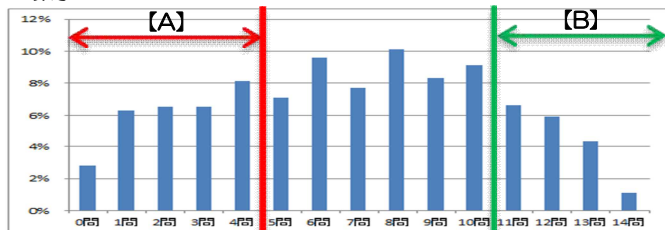
イ 正答数の少ない層の割合



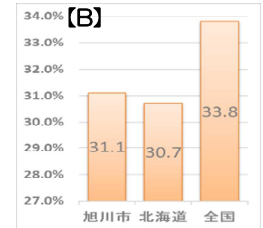
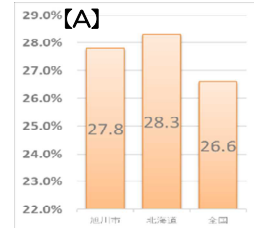
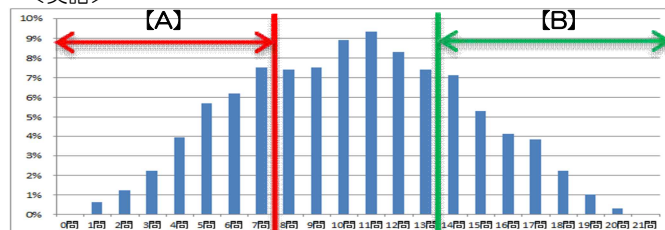
ウ 正答数の多い層の割合



<数学>



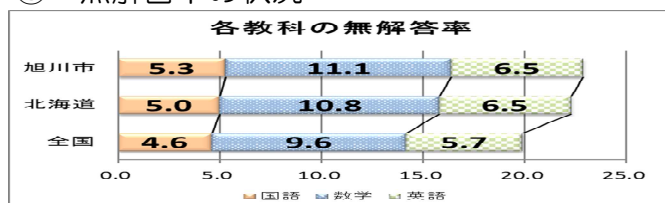
<英語>



- 国語の正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.5少なく、全国より0.1多い。正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道より1.2、全国より2.0少ない。
- 数学の正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.6、全国より3.2多い。正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道より1.3、全国より3.7少ない。
- 英語の正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.5少なく、全国より1.2多い。正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.4多く、全国より2.7少ない。

※「正答数の少ない層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層(下位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。
※「正答数の多い層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層(上位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

③ 無解答率の状況



- 国語については、無解答率が、全国より0.7高く、北海道より0.3高い。
- 数学については、無解答率が、全国より1.5高く、北海道より0.3高い。
- 英語については、無解答率が、全国より0.8高く、北海道と同じである。

(3) 小学校国語 (全14問)

◇相当数の児童ができている設問

※〔 〕は、本市の平均正答率

- 1三(2)イ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う【言葉の特徴や使い方に関する事項】
 1四 文章の種類とその特徴について理解する【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔81.6〕
 2一 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する【読むこと】〔90.1〕

- 1三(2)イ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う【言葉の特徴や使い方に関する事項】

正答率
93.1%

——部イを書き直したものと適切なるものを、
次の1から3までの中から一つ選んで、その番号を
書きましょう。

- 1 比らべて
2 比べて
3 比て

雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。

＜正答の条件＞ ・2と解答している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕は、本市の平均正答率

- 1二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する【書くこと】
 1三(1)ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔56.1〕
 2四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる【読むこと】〔59.7〕
 3三 日常よく使われる敬語を理解する【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔57.8〕

- 1二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する【書くこと】

正答率
25.4%

川村さんは、選んだカードをもとに、次の
【川村さんの文章】の〔 〕に学校の米作り
についての問題点とその解決方法について書
こうとしています。

あなたが川村さんなら〔 〕に入る内容
をどのように書きますか。後の条件に合わせ
て書きましょう。

＜条件＞

- 学校の米作りの問題点については、【川村さんの文書】
のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と
【カード4】のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、【カード5】をもとに
して書くこと。
○ 60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

【カード4】

7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米の
しゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になる
ことがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草
が生えないようにしている。

【カード5】

7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

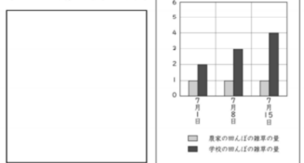
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることが
できました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。
その中でも特に悩んだ問題点とその解決方法について
説明します。

5月下旬に学校の田んぼにえを植えました。6月の
終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを
続けたのですが、いねが病気になる雑草が増えてきて、とても
こまりません。そこで、雑草の量について、農家の田んぼ
とくらべてみました。つきからは7月1日から15日まで
です。

右のグラフは、その結果を
もとにして作ったものです。



このようなことに取り組む、9月の下旬にお米を
しょうかくすることができました。

9年間の視点

＜小学校で身に付けさせたい力＞

- ・引用したり、図表やグラフなど
を用いたりして、自分の考えが
伝わるように書き表し方を工夫
する力（小5、6）

＜中学校へのつながり＞

- ・根拠を明確にしながら、自分の考
えが伝わる文章になるように工
夫すること（中1）

＜無解答率＞

- ・4.6%

＜正答の条件＞ ・次の条件を満たして解答している。

- ① 学校の米づくりの問題点について以下のことを書いている。
a 【川村さんの文章】のグラフから分かること
b 【カード4】から分かること
- ② 問題点の解決方法について、【カード5】をもとにして書い
ている。
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。

＜多く見られた誤答例＞

- ・条件①b、②を満たしているが、条件①aを満たしていない。(20.6%)
- ・条件①a、②を満たしているが、条件①bを満たしていない。(19.0%)

＜正答例＞

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、
雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題
点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

学校の米づくりの問題点として、雑草の量が2週間で2倍程度に増加して
おり、米の収穫量が減ることや、いねが病気になることが心配される。その
問題を解決するため、雑草取りの回数と人数を増やすこととした。

本課題の改善策については、P9へ

(4) 中学校国語 (全15問)

◇相当数の生徒ができている設問

※〔 〕は、本市の平均正答率

- 1一 目的や場面に応じて質問する内容を検討する【話すこと・聞くこと】〔88.2〕
- 1四 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる【話すこと・聞くこと】〔81.5〕
- 2一 事象や行為、心情を表す語句について理解する【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 4一 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む【我が国の言語文化に関する事項】〔84.2〕

- 2一 事象や行為、心情を表す語句について理解する【言葉の特徴や使い方に関する事項】

正答率
92.5%

——一部「落胆する」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

そんな時でも落胆する必要はありません。

- 1 慌てる
- 2 恐れる
- 3 恥ずかしがる
- 4 がっかりする

＜正答の条件＞ ・4と解答している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕は、本市の平均正答率、〔無解答率〕は、高いことが課題

- 1四 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる【話すこと・聞くこと】〔無解答率：12.5〕
- 3一 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える【書くこと】〔55.6〕
- 3二 文脈に即して漢字を正しく書く(推す)【言葉の特徴や使い方に関する事項】〔42.4〕〔無解答率：10.0〕
- 3四 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く【書くこと】〔無解答率：12.3〕
- 4三 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える【読むこと】

- 4三 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える 【読むこと】

正答率
47.0%

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】

＜原文＞

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。(以下、略)

＜現代語訳＞

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。(以下、略)

【図書館で見付けた「竹取物語」の一部】

むかし、竹取じいさんと呼ばれる人がいた。名はミヤッコ。時には、讃岐の造麻呂と、もっともらしく名乗ったりする。

野や山に出かけて、竹を取ってきて、様々な品をつくる。

笠、竿、箆、籠、筆、箱、筒、箸。

(以下、略)

(星新一『竹取物語』による。)

9年間の視点

＜小学校からのつながり＞

- ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること(小5、6)

＜中学校で身に付けさせたい力＞

- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力(中1)

＜無解答率＞

・24.6%

＜正答の条件＞ ・次の条件を満たして解答している。

- ①【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて書いている。
- ② ①について、どのように工夫されていると考えられるかを書いている。

＜多く見られた誤答例＞

- ・まったく記述できていない(無解答)。(24.6%)
- ・条件②を満たしているが、条件①を満たしていない。(14.4%)

＜正答例＞

「よろづのこと」を「笠、竿、箆、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。

「手なれた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る様子を読者が想像できるようにしている。

本課題の改善策については、P9へ

(5) 小学校算数 (全16問)

◇相当数の児童ができている設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

- 1 (1) 5脚の椅子を重ねたときの高さを求める【変化と関係】〔92.2〕
 2 (2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く【図形】

- 2 (2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く

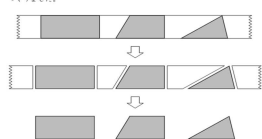
正答率
88.4%

2

えいたさんは、テープを折っています。テープの上の直線と下の直線



えいたさんは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形をつくりました。



切り方によって、いろいろな図形ができますね。

(1) えいたさんは、下のようにテープを直線で切って、あ、い、う、え、おの



あ、い、う、え、おについて、どのような四角形の名前を書き、決めるようにします。

あ、い、う、え、おはどれも ① です。う、え、おは、② ですか。

上の①にあてはまるものを、下の 1 から 5 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の②にあてはまるものを、下の 6 から 10 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① ②
- 1 長方形
 - 2 正方形
 - 3 台形
 - 4 平行四辺形
 - 5 ひし形
 - 6 向かい合った2組の辺が平行な四角形
 - 7 向かい合った1組の辺が平行な四角形
 - 8 4つの辺の長さが等しい四角形
 - 9 向かい合った辺の長さが等しい四角形
 - 10 向かい合った角の大きさが等しい四角形

(2) えいたさんは、テープの上の直線に垂直な直線で切って、四角形をつ

くりました。

まず、えいたさんは、下のようなつくり方で四角形をつくりました。

【えいたさんのつくり方】

- ① 上の直線に垂直な直線アイで切ります。
- ② 点ウの印を右の図のようにつけます。
- ③ 点ウを通って、上の直線に垂直な直線ウエで切ると、四角形アイウエができました。

上のつくり方でできた四角形アイウエは、4つの角がすべて直角になっているから、長方形ですね。

次に、えいたさんは、下のようなつくり方で四角形をつくりました。

【ゆいさんのつくり方】

- ① 上の直線に垂直な直線オカで切ります。
- ② 右の図のように、直線オカが上の直線に重なるように折り、点カが重なったところを点カとし、印をつけます。
- ③ 折ったものをどします。
- ④ 点カを通って、上の直線に垂直な直線キクで切ると、四角形オカキができました。

上のつくり方でできた四角形オカキは、どのような四角形ですか。その四角形の名前を書きましょう。

<正答の条件>・正方形と解答している、

◆課題の見られた設問

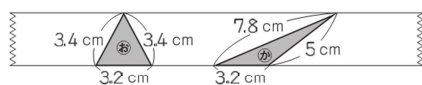
※〔 〕内は、本市の平均正答率

- 1 (3) 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く【変化と関係】〔51.8〕
 2 (3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く【図形】〔20.6〕
 2 (4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く【図形】
 3 (2) 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する【数と計算】〔57.0〕
 4 (1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ【変化と関係】〔47.1〕

- 2 (4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く【図形】

正答率
32.1%

(4) えいたさんは、テープを直線で切って、下のような⑧と⑨の2つの三角形をつくりました。



上の⑧と⑨の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだだけ、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ⑧の面積のほうが大きい。
- 2 ⑨の面積のほうが大きい。
- 3 ⑧と⑨の面積は等しい。
- 4 ⑧と⑨の面積は、このままでは比べることができない。

<正答例>

【番号】3

【わけ】

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。との底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。との高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、との面積は等しいです。

<正答の条件>

番号を3と選び、次の①、②の全てを書いている。

- ①三角形⑧と三角形⑨の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
- ②三角形⑧と三角形⑨の高さが等しいことを表す言葉

<無解答率>

・2.6%

9年間の視点

<小学校で身に付けさせたい力>

- ・図形を構成する要素などに着目し、問題を解決するために必要な情報は何かを判断し表現する力(小4・5)

<中学校へのつながり>

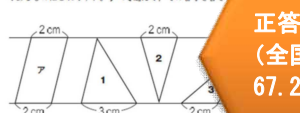
- ・三角形の合同条件などを基にして、三角形や平行四辺形の基本的な性質を見だし表現する力(中2)

<過去の調査問題>

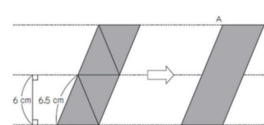
H29

R3

平行な2本の直線を使って、平行四辺形や三角形をかきました。下の 1 から 4 までの三角形の中で、平行四辺形Aの面積の、半分の面積であるものはどれですか。すべて選んで、その番号を書き



正答率
(全国)
67.2%



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形Aの面積を求めます。底辺Cを底辺としたときの面積の求め方を、式で表わします。そのとき、平行四辺形Aの面積の、半分の面積を求めよう。また、平行四辺形Aの面積が何cm²になるかを求めよう。

正答率
(全国)
46.2%

(6) 中学校数学 (全15問)

◇相当数の生徒ができている設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

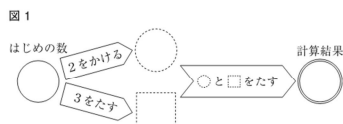
2 12 (x/4+y/6) を計算する【数と式】〔82.0〕

6(1) はじめの数が11のとき、はじめの数にける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める【数と式】

6(1) はじめの数が11のとき、はじめの数にける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める【数と式】

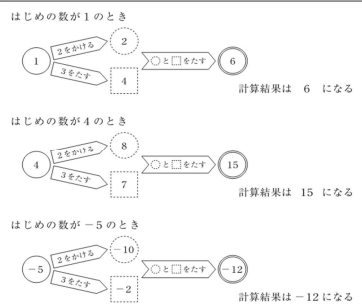
正答率
88.1%

6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



夏希さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が1、4、-5のときは、それぞれ下のような計算になります。

計算の例



次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) はじめの数が11のとき、計算結果を求めなさい。

＜正答の条件＞

・36と解答している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕内は、本市の平均正答率

3 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選び【図形】〔30.4〕

5 女子50m自由形の記録の、最小の階級から2900秒以上3000秒未満の階級までの累積度数を求める【データの活用】〔30.0〕

6(3) はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する【数と式】〔37.7〕

7(2) 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する【データの活用】

8(1) 晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く【関数】〔54.2〕

8(3) グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する【関数】〔40.2〕

9(1) 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する【図形】〔30.5〕

7(2) 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する【データの活用】

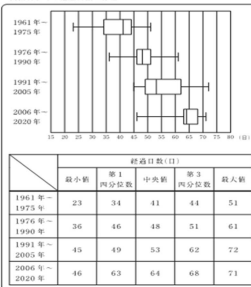
正答率
29.7%

7 イチオウの木の大木が黄色に変わった最初の日を黄葉日といいますが、一度さんと由美さんは、黄葉日を以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることが気になりました。そこで、二人が住む地域も同じ傾向にあるのか気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
...	...	...
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなった年も少なくなった年も気付きました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分け、箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

黄葉日までの経過日数の分布



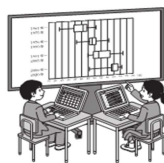
次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

(2) 二人は、箱ひげ図の箱を見て、話し合っています。

一人さん「オウの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなってきている傾向がありそうだね。」
由美さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右側と左側が同じくらいの高さにあるよ。遅くなっているというのかな。」
一人さん「箱ひげ図の右側と左側についてはさうだね。箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

箱ひげ図の箱ひげ図を見ると、一人さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することが出来る理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の黄葉日の箱ひげ図に着目して説明しなさい。



9年間の視点

＜小学校からのつながり＞

・データの特徴や傾向に着目して、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともにその妥当性について批判的に考察する力(小6)

＜中学校で身に付けさせたい力＞

・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する力(中1)

＜無解答率＞

・25.3%

＜正答例＞

- ・1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。
- ・1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きい。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。
- ・1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きい。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。等

＜正答の条件＞

次の(a)、(b)、(c)のいずれかと、(d)について記述しているもの。

- (a) 1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあること。
- (b) 1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きいこと。
- (c) 1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいこと。
- (d) 2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあること。

本課題の改善策については、P15へ

(7) 中学校英語 (全17問)

◇相当数の生徒ができている設問

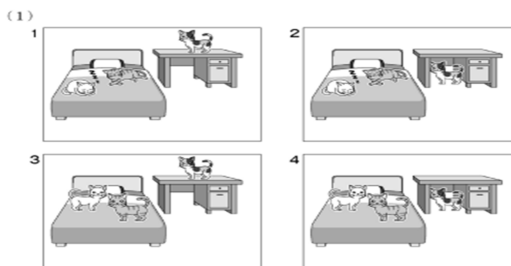
※〔 〕は、本市の平均正答率

- 1 (1)ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する【聞くこと】
 1 (2)道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する【聞くこと】〔67.1〕
 5 (2)事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する【読むこと】〔63.6〕
 7 (1)図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する【読むこと】〔57.2〕

- 1 (1)ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する【聞くこと】

正答率
77.3%

- 1 話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までのの中から1つ選びなさい。



＜正答の条件＞
・2と解答している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕は、本市の平均正答率、〔無解答率〕は、高いことが課題

- 3 バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する【聞くこと】〔39.9〕
 6 友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する【読むこと】〔32.9〕
 9 (1)②与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる【書くこと】
 話1 3 動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する【話すこと】〔4.5〕〔無解答率：24.6〕

- 9 (1)②与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる【書くこと】

正答率
16.5%

- 9 (1)次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <友達同士の会話>
 A: I called you at eight last night.
 B: Oh, sorry. I () do () my homework then.
 (答え) was doing

① <先生と生徒の会話>
 A: Do you have any plans for summer vacation?
 B: Yes. I () visit () my uncle in London.
 I can't wait!
 A: Wow, that's nice!
 ② <友達同士の会話>
 A: Oh, you have a new watch!
 B: Yes, I got it yesterday.
 A: () buy () the watch?
 B: At a department store near the station.

9年間の視点

＜小学校からのつながり＞

- 疑問文を用いて話すことを小学校から中学校まで繰り返し、継続して指導すること

＜中学校で身に付けさせたい力＞

- 生徒自身が教師やALTに質問したり、生徒同士が質問し合いながらコミュニケーションを図る力

＜無解答率＞

・14.3%

＜正答の条件＞

- 疑問詞 Where を用いて一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書いているもの
- 疑問詞 Where を用いて一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの

＜多く見られた誤答例＞

- 疑問詞 Where を用いて一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を書いているが、誤りがあるもの
- 疑問詞 Where を用いているが、一般動詞の2人称単数過去形以外の疑問文を書いているもの
- 異なる疑問文を書いているもの
- 疑問文を書いていないもの、それ以外の解答や無解答

＜正答例＞

Where did you buy

本課題の改善策については、P19へ

3 教科に関する調査結果の課題の改善策

課題の改善策 1

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小1二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- 小2四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- 中4三 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

国語

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第5学年及び第6学年〕書工
- 〔小・第5学年及び第6学年〕読才
- 〔中・第1学年〕読工

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 目的に応じた情報を見つけて、文章を書くこと
- ② 必要な情報と不必要な情報を適切に判断し、取捨選択すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・条件を満たし、情報を選択して文章を記述する力

【国語の改善策①】

条件を明確にした課題の設定と、条件を満たして解答することができたかを確認する活動の設定

授業例

小・第5学年「固有種が教えてくれること」

授業改善のPOINT

終末場面において、条件を一つずつ確認し、自分の記述にも線を引かせるなどして、条件を満たして解答できていることを全ての児童に実感させましょう。

全ての児童が課題を解決できるよう、それぞれの条件を満たすために手掛かりとなる情報や考えを交流し、視覚化します。

授業改善のPOINT

課題解決のゴールを明確化するため、条件を明らかにしましょう。文の数や字数を制限することにより、情報の取捨選択や言葉の精査を行う力が高まります。

本時の課題設定につながる既習事項を確認し、本時の課題意識を高めます。

ふり返り

提示された条件を意識して、自分の考えを表現することができましたか。
本文や資料の内容を踏まえて、自分の考えを述べることはできましたか。

選んだ資料 ⑥と⑦
天然林等面積の減少と、全国のニホンカモシカは、かく数の増加の関係から、固有種の保護は、その生息環境の保護とのバランスが重要であるという点に納得しました。このことから、私は、筆者の考えの「固有種がすむ日本の環境をできる限り残していかなければならない」というところに共感します。（百三十六字）

<条件>

- 一 資料①～⑦から、自分の考えにつながるものを二つ選ぶこと
 - 二 選んだ資料の内容と本文の言葉を使って自分の考えを書くこと
 - 三 百字以上、百五十字以内で書くこと
- 各資料の役割を確認する
資料をもとにわかったことを整理する
筆者と自分の考えを比較する
↓共感、納得、疑問

めあて

筆者の考えについて、資料や本文をもとに自分の考えをまとめよう。

固有種が教えてくれること
「筆者の考え」
わたしたちは、固有種がすむ日本の環境をできる限り残していかなければならないし、それが日本にくらすわたしたちの責任なのではないだろうか。

課題の改善策2

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小1三(1) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
- 小3三 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる。
- 中3二 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年及び第6学年〕(1)エ

〔小・第5学年及び第6学年〕(1)キ

〔中・第2学年〕(1)ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと（特に同音異義語・同訓異字）
- ② 日常によく使われる敬語を理解すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・漢字（同音異義語・同訓異字）や言葉の使い方について理解し、生活の中で適切に使う力

【国語の改善策②】

言葉の特徴や使い方の内容について、各学年における確実な習得と確認

＜授業例＞

小・第5学年「同じ読み方の漢字」

改善のPOINT

当該の内容が確実に定着しているか、学期末や年度末などに改めて確認し、必要に応じて、学び直しをしましょう。

旭川市学習プリントの活用

同訓異字や同音異義語を意図的に間違えて使った作文を児童に作らせます。その文を周りの友達と交換して、どこを間違えているのかを探させて、正しい漢字に直させます。

授業改善のPOINT

主体的に考えて取り組める活動を用意することが大切です。国語辞典や漢字辞典を使った自主的な取組を入れましょう。国語辞典や漢字辞典で、意味や使い方を調べ、文脈に合った適切な意味や使い方をとらえることで、力が身に付きます。

同じ訓、同じ音の読み方をする漢字の例を提示して、児童に学習への関心をもちさせます。

ふり読み

やってみよう

・同じ訓の漢字や同じ音の漢字について分かったことは何ですか。
これから漢字を使う時に気を付けたいことは何ですか。

・友達に再会したので、文通を再開した。
早く帰る

間違え探しクイズ

※同じ読み方で、意味のちがうものがある。

しょう油以外使っていないのに、意外とおいしい料理だ。

一週間に一回発売される週刊誌。

＜例②＞

同じ音の漢字

※同じ訓でも、意味や使い方はちがう。

暑い 夏

熱い お茶

厚い 辞書

前後の関係から、どの漢字を使うのが適切かを考えることが大切。

＜例①＞

同じ訓の漢字

めあて
同じ読み方の漢字について知り、それを生かして漢字を読んだり書いたりしよう。

同じ読み方の漢字

課題の改善策3

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

学習指導要領における領域・内容

中③ー 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

〔中・第1学年〕 書工

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 情報の伝わり方を意識して、書くこと
- ② 目的や意図に応じて適切に表現できているかを見直して、改善すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・情報の受け手の立場に立って、伝え方を工夫・改善する力

【国語の改善策③】

「話すこと」「書くこと」によって情報を発信する場面において、受け手の立場に立って、伝え方を見直し、改善する活動の設定

＜授業例＞

中・第1学年「助言を自分の文章に生かそう」

授業改善のPOINT

助言の視点が指導事項とつながっていることが大切です。互いの助言が効果的になるように、助言の視点を明確にしておきましょう。

授業改善のPOINT

読み手に適切に伝えるために、互いの助言が重要であることを確認してから活動させましょう。また、終末でのまとめや振り返りの時間で生徒が推敲したことの価値を感じられるようにしましょう。

ICT活用例

- 1 クラスルームで「ドキュメントファイル」を配付します。
- 2 「変更を提案」の機能や推敲した部分の色を変えるなどして、推敲したポイントを後から振り返る活動に繋がります。

ふり返し

＜助言をするときの視点＞

構成や表現の工夫

- ・書き出しと結びが対応しているか
- ・呼びかけなど、書評に使う言葉が効果的に使用されているか

根拠の説明

- ・具体的な場面が示されているか
- ・引用と自分の考えが適切に結びついているか

④ 推敲前・推敲後の書評を読み比べ、推敲した効果について評価し合う(5分)

③ 助言や自分で考えたことをもとに推敲する(15分)

② 仲間と交流し、よりよい書評となるように、助言の視点に沿って助言し合う(15分)

① 助言の視点を意識しながら、自分の作品を読み直す(5分)

＜学習の流れ＞

めあて

グループ内で書評を読み合い、自分の意図や考えがより伝わるように推敲しよう。

作品の書評を書く
助言を自分の文章に生かそう

課題の改善策4

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小②四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- 中②四 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。
- 中③四 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年及び第6学年〕読才

〔中・第2学年〕読才

〔中・第1学年〕書ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 文章や資料と自分の経験や知識を関連付けながら自分の考えをもつこと
- ② 根拠に基づいて自分の考えを文章で表現すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・文章や資料を読んで理解したことを、自分の知識や経験と関連付けて自分の考えをもち、文章で表現する力

【国語の改善策④】

文章や資料を読んで理解したことと自分の考えや経験とを比較したり関連付けたりしながら、終末に自分の考えを書く活動の設定

＜授業例＞

中・第2学年「言葉の力」

授業改善のPOINT

終末に単元の学びを生かし、条件にしたがって自分の考えを書く活動を設定しましょう。全ての生徒が条件を満たして書くことができるよう、サイドラインを引かせるなどして、めあてを達成していることを実感させましょう。

ICT活用例

- 1 クラスルームの「質問」「記述式」で課題を提出させます。
- 2 生徒のまとめをモニターに提示し、全体で条件の確認をします。

課題解決のゴールを明確にするために条件を明らかにしましょう。条件を落とさずに書くために、3つのことを取り上げて書くことを確かめましょう。

授業改善のPOINT

本時の課題設定につながる既習事項を確認し、課題意識を醸成するとともに、どの生徒も自信をもって考えを表現できるよう、手掛かりとなる情報を視覚化し見通しをもたせましょう。

ふり振り返り

筆者の考えと自分の経験を結び付けて自分の考えをまとめることができましたか。これから、「言葉」をどのようにつかっていくのですか。

① 筆者は「美しい言葉・正しい言葉」とは、その言葉を発している人の人柄や気持ちなどの人間全体を映し出して初めて美しく・正しい言葉になるという考えを述べています。

② 私は以前、お礼や謝罪を述べる際にも気持ちがいちがもっていないと相手には響かないと思った経験があります。

③ 私は「美しい言葉、正しい言葉」とは、特別な言葉なのではなく、当たり前の日常の言葉が発する人の心や伝え方によって力をもつのだと思いました。だからこそ、言葉を通して何を伝えたいのかということ大切に言葉を使っていきたいです。

<条件>

- 一 ①「美しい言葉、正しい言葉」に対する筆者の考えをとりあげて書くこと
- 二 ②自分の経験をふまえて③筆者の考えに対する自分の考えを書くこと

<各段落の要点>

- 一 言葉にはそれだけで正しい美しいと決まっているものはない。言葉を発している人間全体が反映されている。
- 二 桜の花びらにかかわる具体例
- 三 桜の花びらが背後に幹をもつように言葉はその背後に人間全体を背負っている。

めあて

筆者の言葉に対する考え方について自分の考えをまとめよう。

言葉の力

課題の改善策 1

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

小④(1) 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる

中⑧(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年〕C変化と関係(3)ア(イ)

〔中・第2学年〕C関数(1)ア(ア)・イ(ア)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ・問題場面から、事柄や関係を数学的に捉えること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・問題場面から事柄や数量の関係を数学的に捉える力

【算数・数学の改善策①】

授業の導入場面において、児童生徒の問題意識を引き出し、算数・数学の問題を見いだす活動の設定

＜指導の工夫例＞

授業改善のPOINT

日常生活や社会における具体的な場面から、児童生徒が算数・数学の問題を見だし、解決に取り組むことができるように働きかけを工夫しましょう。

A プリ W

「大きな数2nd②」

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒が算数・数学の問題を発見するよう働きかけること

☆小学2年「1000より大きい数」3/7

①日常生活における具体的な場面を取り上げる。

T：(100円玉が23枚ある絵を提示しながら) これ何かわかる？

C：100円玉。23枚。

T：23枚あるね。だったら23円だね。

C：ちがう！

T：23枚なのに23円じゃないの？

②数学的に表現した問題を設定する。

問題 100円が23枚でいくらになるでしょうか。

23を20と3に分けて…

100が20こで2000

100が3こで300

次の問題も同様に組み合わせ

問題 3400円は、100円がなんまいでしょうか。

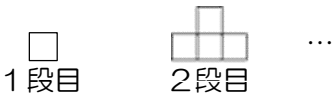
2000と300で
2300

図などを使いながら説明させる。「同じ説明できる？」と問い返し、友達の考えを繰り返させるなど、自分でも説明する機会を作る。

☆中学3年「関数 $y = ax^2$ 」1/15

①数学の事象を提示する。(以下、T：教師 S：生徒)

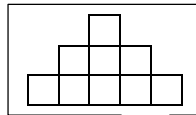
T：1辺2cmの正方形を次のように重ねていきます。



1 段目

2 段目

...



T：3段目の形は予想できますか？

S：3段目は正方形が9個必要です。S：こんな図形になります。

S：1番下の正方形の数がどんどん増えていきます。

T：段数が増えていくと、形以外にも色々な数量が変わっていきますね。

②数学的に表現した問題を設定する。

問題 段数が増えると、それとともなってどんな数量が変わっていきそうか？

※オープンエンドの問題を扱うことで、すべての生徒が数学の問題を見いだすきっかけを作る。

3, 4段目の形を生徒に予想させ、問題意識を高める。

授業改善のPOINT

数学の事象を提示し、児童生徒とのやりとりを通して、児童生徒の問題意識を高めてから問題を設定したり提示したりしましょう。

中学校学習プリント

「関数 $y = ax^2$ 」

課題の改善策2

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小③(2) 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる
- 中⑥(3) 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる

算数・数学

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第3学年〕A数と計算(5)ア(イ)
〔小・第4学年〕A数と計算(4)ア(エ)イ(ア)
〔中・第2学年〕A数と式(1)イ(イ)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 問題を解決した結果を振り返り、問題場面に適しているか判断すること
- ② 問題を解決した結果から、さらに分かることや予測できることについて考えること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・計算などの結果について、日常生活の場面に即して判断したり、発展的に考察したりする力

【算数・数学の改善策②】

問題を解決して得られた結果について考察する活動の設定

＜指導の工夫例＞

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・問題を解決した結果から分かることについて考える機会を設けること

授業改善のPOINT

「直感」は、感覚のみでわいてきたもの、「直観」は、思考や経験を基盤として根拠があるものとして記載しています。

問題を解決して得られた結果を、日常生活や社会の場面に照らして考えたり、学んだことを日常生活で活用したりしましょう。

☆小学5年「単位量あたりの大きさ」2/12

問題 どちらのプールがこんでいますか？

直観で答えを予想させた後、個人思考させる。

集団解決では、はじめに式だけを取り上げる。

$$A \begin{cases} 200 \div 18 = 11.1\cdots \\ 80 \div 8 = 10 \end{cases} \quad B \begin{cases} 18 \div 200 = 0.09 \\ 8 \div 80 = 0.1 \end{cases}$$

それぞれの式が何を求めるものなのか、計算結果からどんなことが言えるのかを説明させる。

A { 人数で割っているの、1人あたりの面積を求めている。
単位は「㎡」。
1人あたりで比べると、計算結果が小さいほど混んでいる。

B { 面積で割っているの、1㎡あたりの人数を求めている。
単位は「人」。
1㎡あたりで比べると、計算結果が大きいほど混んでいる。

A, B どちらの考えでも①が混んでいる。

	人数(人)	面積(㎡)
㊲	18	200
㊱	8	80



A プリ「こみぐあい」

【問題の解決後、新たな条件を提示し、発展的に考察する場面を設定する。】

☆中学3年「2次方程式」9/12

問題 連続する2つの整数がある。それぞれを2乗した数の和が61になる2つの整数を求めなさい。

- ① 2次方程式を作り、解を求める。

$$\begin{aligned} x^2 + (x+1)^2 &= 61 \\ (x-5)(x+6) &= 0 \\ x &= 5, x = -6 \end{aligned}$$

- ② 問題の答えを考える。

答え 5と6, -6と-5

- ③ 問題文の「2つの整数」を「2つの自然数」へと問題の条件を変更すると、答えがどうなるか考察する。

※答えを考察することを通して、2次方程式の解が問題に適しているか確かめることの必要性を理解させる。

2次方程式の解から、「答えは5と-6だね。」と発問し、生徒から「間違っている。」という反応を引き出したい。その理由について、交流することを通して、理解を深めたい。

授業改善のPOINT

問題を解決する過程や解決して得られた結果から、新たな問いを見だし、考察する活動を位置付けましょう。

中学校学習プリント
「2次方程式とその解」

課題の改善策3

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小②(4) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
- 中⑦(2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第5学年〕B 図形(3)イ (ア)
- 〔中・第2学年〕D データの活用(1)イ (ア)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 平行線間の距離が一定であることを基に、三角形の面積を求めること
- ② 箱ひげ図を根拠として、説明すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・問題解決に必要な数値や関係を捉え、数学的に表現・処理する力
- ・与えられた条件を踏まえて、解決の方針を立てる力

【算数・数学の改善策③】

問題を解決するために必要な情報やよりよい方法を判断する活動の設定

<指導の工夫例>

授業改善のPOINT

問題文や図から問題を解決するために必要な情報を選び出したり、正しい求め方を選択したりするなど、児童生徒が判断する活動を位置付けましょう。

A プリ「体積」

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒が判断する機会を増やすこと

【問題提示場面において、与える情報をあえて少なくしたり、多くしたりする。】

☆小5「体積」9/11

問題 右の図の立体の体積は何cm³になる？

- C:「このままじゃ、辺の長さが分からないから求められないよ。」
T:「どこの辺の長さが分かると求めることができるのかな。」
C:「全ての辺の長さが分かるといいな。」
C:「いや、全部じゃなくてもできると思うよ。」
T:「そうなの？どこの辺の長さが分かれば求めることができそう？」

※どこの辺の長さを知りたいか考えさせる

【判断する、考えをまとめる時間の確保】

- C:「ここの辺の長さが知りたい！」
T:「どうしてこの長さが分かれば体積を求められると思ったの？」
C:「だってね、ここの辺の長さが分かればこの直方体の・・・」

ポイント その情報が必要・不要だと判断した理由を問う。

子どもが「だってね、・・・」と話し始める機会つくる

【複数の解き方からよりよい方法を判断する。】

☆中学3年「平方根」10/16

問題 次の式を計算しなさい。

(1) $\sqrt{12} \times \sqrt{6}$ (2) $\sqrt{12} \times \sqrt{63}$

※生徒が行った計算方法から、次の3つの計算方法を取り上げる。

①先に√の中で乗法→ $a\sqrt{b}$ への変形

例 (1) $\sqrt{12} \times \sqrt{6} = \sqrt{72} = 6\sqrt{2}$

②先に√の中を積の形に分解→ $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{ab}$ の乗法

例 (1) $\sqrt{12} \times \sqrt{6}$
 $= (\sqrt{2} \times \sqrt{2} \times \sqrt{3}) \times (\sqrt{2} \times \sqrt{3})$
 $= 2 \times 3 \times \sqrt{2} = 6\sqrt{2}$

③先に $a\sqrt{b}$ への変形→ $a\sqrt{b} \times c\sqrt{d} = ac\sqrt{bd}$ の乗法

⇒正確さ、わかりやすさなど、何を重視して計算をしたのかを考えさせる。

※1つの解き方、答えの導き方にこだわらず、自ら考え判断し、他の計算方法と比較してそのよさを表現させる場を設定したい。

授業改善のPOINT

複数の方法から選択して問題の解決に取り組み、解決後に、その選択について振り返って考える活動を位置付けましょう。

中学校学習プリント
「平方根の計算」

課題の改善策4

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小①(3) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
- 中⑧(3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第5学年〕C変化と関係(1)イ(ア)
(2)イ(ア)
- 〔中・第2学年〕B図形(2)イ(イ)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 求め方や答えを式や言葉を用いて説明すること
- ② 事柄が成り立つ理由を筋道立てて考え説明すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・求め方や答えを数学的な表現を用いて説明する力
- ・根拠を明確にして説明する力

【算数・数学の改善策④】

図や式など、数学的な表現を用いて説明したり、説明を正確・簡潔・明瞭にしたりする活動の設定

<指導の工夫例>

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒が理由や根拠を含めて説明する機会を増やすこと

【図や式などを用いて説明し、それらを関連付けて児童が説明できるように工夫する。】☆小学6年「比例と反比例」6/12

問題 (画用紙を教室に持参するなどして) 画用紙がたくさんあります。これを1枚ずつ数えずに、全部で何枚あるかを調べる方法を考えましょう。

図

表

枚数 x (枚)	10	20	30	?
重さ y (g)	94	188	282	2444

重さが何倍分かれば、枚数も何倍分かりそう！

式 $94 \times \square = 2444$
 $\square = 2444 \div 94$
 $= 26$
 $10 \times 26 = 260$
 答え 260 枚

26 が何を表しているのかを、図や表と関連付けて言葉で説明し合う場を設ける。「重さが 26 倍になっているので、画用紙の枚数も 10 枚の 26 倍になっている」という考えの他に、画用紙 1 枚あたりの重さを求め、 $y = 9.4 \times x$ という比例の式を使って答えを求める児童も考えられる。

比例の考えを使えそう！

授業改善のPOINT

一人一人の児童生徒が考えを図や表や式で表現する機会を意図的に設定しましょう。

A プリ「比例の関係」

授業改善のPOINT

誤りのある証明や説明を読み、解決の過程を振り返って改善する活動を取り入れましょう。

中学校学習プリント
「2次方程式」

【①誤りのある証明を読み、適切な証明を考える。】☆中学2年「平行と合同 17/20 問題」角の二等分線の証明を次のように考えたが、間違いである。どこが間違っているのだろうか？

△AOPと△BOPにおいて、仮定より、OA=OP、∠AOP=∠BOP、共通な辺なので OP=OP 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、△AOP≡△BOP したがって、∠AOP=∠BOP

(1)間違いを考え、説明し合う。確認後、正しい証明を考える。

→なぜ間違いなのかを根拠をもち説明する。

(2)正しい証明をするために気をつけることを交流する。

→仮定と結論の整理、記号の使い方等を確認する。

【②考えに誤りのある解答を読み、適切な解答を考える。】☆中学3年「2次方程式」4/16 問題 次の方程式の解き方は間違っている。どこで、どのように間違えているのだろうか？

$$6x^2 - 30x = 0$$

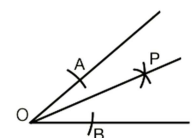
$$x^2 - 5x = 0$$

$$x - 5 = 0 \quad x = 5$$

(1)間違えている箇所を交流する。

(2)間違えている箇所の理由、間違える原因となる箇所を交流する。

例)・ $x = 0$ も解になるはず。・ $x = 0$ の時、両辺を割ることはできない。



課題の改善策【聞くこと】

英語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- ③ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る。

学習指導要領における領域・内容

聞くこと
ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 自分の置かれた状況をしっかりと把握し、何を聞き取ればよいかを理解すること。
- ② 関連する語句や表現に着目して必要なことを聞き取ること。

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・話されていることのすべてではなく、自分の置かれた状況にとって必要な情報かを判断して聞き取る力

【聞くことの改善策】

置かれた状況を判断し、必要な情報を聞き取る活動の設定

<指導の工夫例>

中学校第2学年 教科書 P57～65
Unit 4 Homestay in the United States

学習展開

学習課題

1. 自分の置かれた状況などを理解する。
2. 英語を聞き、自分が聞き取らなければならない情報を把握する。

あなたは、夏休みにアメリカのイリノイ州に3週間、ホームステイで滞在することになりました。ホストマザーから事前にビデオレターが届きました。滞在先で守るべきルールを聞き取りましょう。

英語を聞く(1回目)

Hello, Takeru. This is Susan Williams, your host mother. We are looking forward to seeing you soon. Anyway, today I want to tell you our house rules. During your homestay, you are a member of our family. So you have to follow our house rules. First, you have to speak English with us as much as possible. You can use gestures. Second, you must come home by seven. Third, we have a 6 months old baby. So please be quiet when she sleeps in her bed in the living room.

If you have any questions, please send me a message before leaving Japan. See you soon.

Did you get it? How many rules do you have?

Three...

What rules do you have to follow?

I want to listen one more time.

英語を聞く(2回目)

3. 再び英語を聞き、自分にとって必要な情報は何かを判断する。

《解答確認とポイントの整理》

4. 学んだことを他の場面や状況で活用する。

<授業改善のPOINT>

課題を整理する

知識及び技能に課題がある場合は、語彙や文法を再確認する。

<授業改善のPOINT>

聞くポイントを整理する

活動の終盤に、状況判断や必要な情報をつかむためのポイントを整理する。

<授業改善のPOINT>

別の場面で活用する

状況判断や聞くポイントの整理の仕方を学習した後、留守番電話のメッセージを聞いたり、学校祭での役割分担の確認をしたりするスクリプトを聞き取るなど、別の場面でも活用してみる。

◎小学校からのつながり

小学校の単元の始まりのリスニング活動に加えて明確な状況設定と「何を聞き取ればよいか」の課題を明確にした学習活動を展開する。

課題の改善策【読むこと】

英語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- ⑥ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。

学習指導要領における領域・内容

読むこと
ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 与えられたイベントの情報を読む際に、日時や場所、内容などの情報を正確に読み取ること。

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・与えられた情報を読む時に、何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で読み取る力

【英語の改善策②】

日常的な話題について、必要な情報を読み取る活動の設定

<指導の工夫例>

中学校第2学年 教科書 P71～78
Unit 5 Universal Design

学習展開

学習課題

- ① 映画館の9月の情報(英語版)を読み、自分の9月の予定を見ながら、観に行きたい映画を選択しよう。

Activity1 自分の9月の予定表を作成する

You're going to watch a movie. First, I want you to make your own schedule of this month.



OK.

自分の予定表を作成し、自分の置かれた状況を把握する

Activity2 映画情報(英語版)を読む

Next, open your iPad. You can see the schedule of the movies in this month.

What kind of movies do you want to watch? What day of the day will the movie be on? What time does the movie start?

自分にとって必要な情報を正確に読み取る

Activity3 自分が見に行きたい映画を選択する

Finally, select the movie you want to watch. If you select, please check the day and the starting time, and so on.

判断したことが、自分の置かれている状況を考慮されているかチェックする

<授業改善のPOINT>

日常的な話題を設定する

題材については、日常的な話題、かつ、できるだけ現実に近い場面を設定する。

<授業改善のPOINT>

必要な情報を読み取る

必要な情報について、質問によって導き、整理する。

<授業改善のPOINT>

情報を確認する

読み取った情報が、置かれている状況を考慮しているかを確認し、正確に読み取れているかどうかを確認する。

◎小学校からのつながり

小学校での読むことの指導を踏まえ、5W1Hを常に意識しながら情報を読み取ることを指導する。

課題の改善策【書くこと】

英語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- ⑨(1)②疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる。

学習指導要領における領域・内容

書くこと
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 時制を正しく判断すること。
- ② 正確に一般動詞の疑問文を書くこと。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができる力

【英語の改善策③】

文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする活動の設定

＜指導の工夫例＞

中学校第1学年 教科書 P101～107
Unit 10 Winter Vacation

学習展開

学習課題

教師が冬休み中にしたことについて聞いて、さらに詳しい情報を得るための質問を考えよう。

Activity 1 教師に対する質問を考える

I went to Kansai. I ate a lot of local food. I visited famous places.

Do you have any questions?



What do you eat?

必要となる疑問詞に重点を置いて確認する

Activity 2 自分で考えた質問を書く

Next, write your questions on your sheet.

I'm in Asahikawa now. I went to Kansai during my winter vacation. So, don't use do. You should use... Yes! Did!

時制を意識して疑問文を考えさせる

Activity 3 自分の質問に修正を加える

Check your questions with the self check sheet.
特に疑問詞, did, 動詞の形について確認してみてください。

書いた疑問文が正しいか自分でチェックさせる

＜授業改善のPOINT＞

日常的な話題の設定

教師が用意するのではなく、生徒自身が考える質問で言語活動を始める。

＜授業改善のPOINT＞

別の場面での活用

別の場面においても、疑問文を用いて話したり書いたりすることについて3年間を通じて、継続的に指導する。

＜授業改善のPOINT＞

正確さを高める指導

自分の質問を書き出して正しいかどうか確認をするなど、生徒自身が誤りに気づき、修正を加えるよう指導する。

◎小学校からのつながり

受容語彙の一部が段階を経て発信語彙として習得されていくことに留意して指導する。

課題の改善策【話すこと】

英語

課題の見られた問題の出題の趣旨

話①(3)疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

話すこと【やり取り】
ア 関心のある事柄について簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 疑問文の語順などの特徴について十分に理解すること。
- ② 疑問文の語順などの特徴についての知識を活用する技能を身に付けること。

<身に付けさせたい資質・能力>

・対話を継続・発展させるために、関連する質問をすることができる力

【英語の改善策④】

会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする活動の設定

<指導の工夫例>

中学校第2学年 教科書 P21～30

Unit 2 Food Travels around the World

学習展開

学習課題

- ① 自由時間に何をするかについて、クラスメイトにインタビューしましょう。また、聞き取ったことをメモしましょう。
- ② メモの情報をもとに相手に質問をして、対話を続けましょう。

Warm-up Criss Cross

I'm going to tell you about myself. Please ask any questions to me.

I usually watch sports on TV when I'm free.

What do you like sports?

Oh, you want to know about the sports I like. So, you should say, "What ..."

...Sports! What sports do you like?

教師とのやり取りの中で、課題解決に必要な正しい表現を生徒から引き出す

Interview 十分な活動時間を設定し、即興で自由な対話をするよう促す

What do you usually do when you have free time?

I usually practice soccer when I'm free.

I see. Where do you practice soccer?

I usually practice in Wakaba Park. Do you like soccer?

慣用表現や定型表現に慣れ親しませる

対話の様子を録画し、視聴しながら助言したり生徒の気づきを促したりする

<授業改善のPOINT>

即興で伝え合う指導

相手に対する聞き返し、確認、相づち、つなぎ言葉を使うことや相手の答えを聞いて、自分のことを伝えるだけではなく、関連する質問を付け加える。

<授業改善のPOINT>

正確さを高める指導

語順、動詞の形の変化、イントネーション等を意識するよう声かけをする。

<授業改善のPOINT>

別の場面で活用する

別の場面においても、疑問文を用いて話したり書いたりすることについて3年間を通じて、継続的に指導する。

◎小学校からのつながり

小学校でのその場で伝え合う指導を踏まえ、事前の準備をすることなく、即興で対話に取り組むよう指導する。

4 児童生徒質問紙調査結果の概要

(1) 質問項目の分類の考え方

児童生徒に対する質問紙調査の全質問項目（小学校59・中学校72）について、国立教育政策研究所の報告書では、質問項目を12個に分類していますが、この国立教育政策研究所の分類と本市の確かな学力育成プランの3つのカテゴリー（「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい学習習慣づくり」）との関連付けを図り、下の表のとおり整理しました。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号	
1 学びを深める授業づくり	地域や社会に関わる活動の状況等	小	25～28（4問）
		中	29～32（4問）
	ICTを活用した学習状況	小	29～31（3問）
		中	33～35（3問）
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小	32～38（7問）
		中	36～42（7問）
	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	小	39～42（4問）
		中	43～46（4問）
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	小	43～50（8問）
		中	47～54（8問）
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	小	51～54（4問）
		中	55～58（4問）
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	小	55～59（5問）
		中	59～72（14問）
2 落ち着いた学級づくり	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	小	4～15（12問）
		中	4～15（12問）
3 望ましい学習習慣づくり	基本的生活習慣等	小	1～3（3問）
		中	1～3（3問）
	学習習慣、学習環境等	小	16～24（9問）
		中	16～24（9問）
※ 部活動の参加状況等	部活動	中	25～28（4問）

(2) 分析結果の整理

質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした児童生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問事項」とし、肯定的な回答が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問事項」として整理しました。

(3) クロス集計

教科に関する調査結果における正答率の高い児童生徒（U層）とそれ以外の児童生徒（E層）の質問紙調査の回答状況を比較し、各教科の正答率と学習状況・生活習慣との相関関係を分析しました。

(4) 旭川の子どもたちの概況

- 学びを深める授業づくり → ◆
- 落ち着いた学級づくり → ■
- 望ましい学習習慣づくり → ●

小学生

- ◆国語や算数、英語の勉強は大切だと思います
- ◆国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思います
- ◆国語の授業の内容はよく分かります

- ◆学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思います
- ◆5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日～週1回以上使用しています
- ◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています



- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思います
- 人の役に立つ人間になりたいと思います
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思います



- 朝食を毎日食べています
- 毎日、同じくらいの時刻に起きています
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ています

- ◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童の割合は低い
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童の割合は低い
- 学校の授業以外（普段、休みの日）1日当たり1時間～2時間以上勉強している児童の割合が低い

中学生

- ◆国語や数学の勉強は大切だと思います
- ◆国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思います
- ◆自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思います

- ◆学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思います
- ◆1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日～週1回以上使用しています
- ◆道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいます



- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思います
- 人の役に立つ人間になりたいと思います
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思います



- 毎日、同じくらいの時刻に起きています
- 朝食を毎日食べています
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ています

- ◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる生徒の割合は低い
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う生徒の割合は低い
- 学校の授業以外（普段、休みの日）1日当たり2時間～3時間以上勉強している生徒の割合が低い

(5) 小学校

①「学びを深める授業づくり」について

分析結果

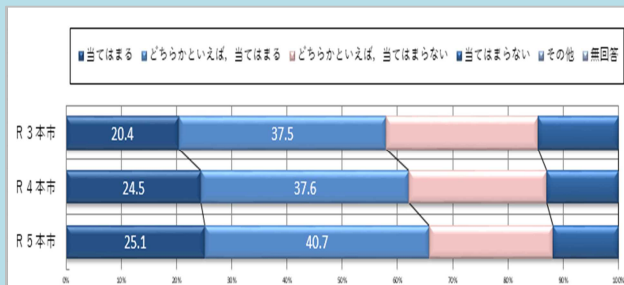
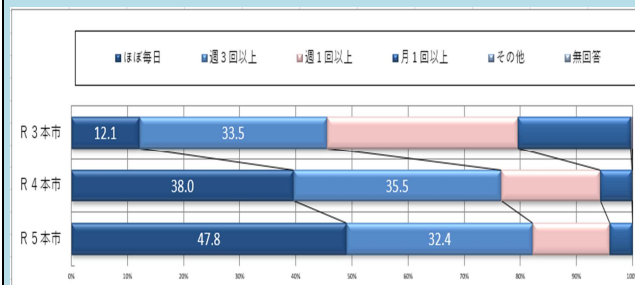
- 35質問項目中、17項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」などの5項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、6項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「算数の勉強は好きですか」などの2項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。
- 正答数の多い児童は、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と思っている割合が高い傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つかと思いますか（96.6%）
- 国語や算数、英語の勉強は、大切だと思いますか
（国語：96.0%，算数：95.0%，英語：89.6%）

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

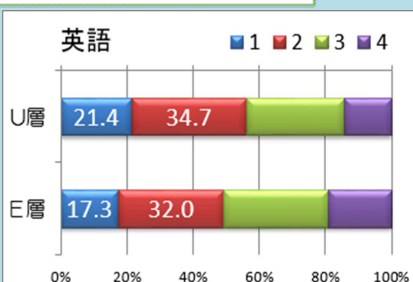
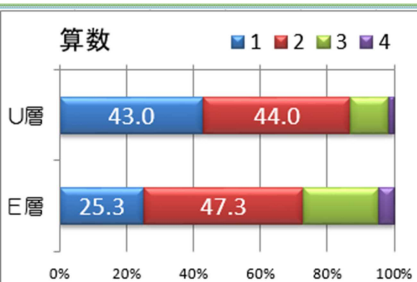
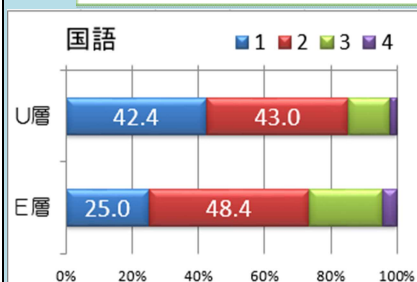
- 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※週3回以上～ほぼ毎日
肯定的な回答としました。
- 国語の勉強は好きですか



正答数の多い児童（U層）とそれ以外の児童（E層）とのクロス集計

- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



本課題の改善策については、P27、28へ

②「落ち着いた学級づくり」について

分析結果

- 12質問項目中、10項目において肯定的な回答が高い割合を示し、肯定的な回答が低い割合を示す項目はありませんでした。
- 3年間の経年比較では、「自分には、よいところがあると思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」などの4項目において、肯定的な回答が増加傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（98.2%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（95.6%）
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか（92.0%）

本課題の改善策については、P29へ

③「望ましい学習習慣づくり」について

分析結果

- 12質問項目中、3項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「新聞を読んでいますか」などの5項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、肯定的な回答が増加傾向にある項目はありませんでした。「新聞を読んでいますか」「朝食を毎日食べていますか」の2項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 朝食を毎日食べていますか（92.3%）
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（89.8%）
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（82.2%）

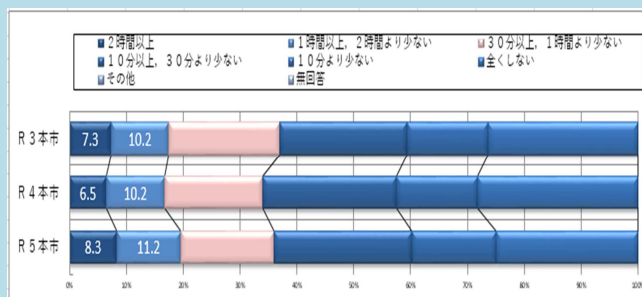
肯定的な回答が全国の数値を下回った質問項目

※（ ）内の数値は、全国との差を表しています

- 朝食を毎日食べていますか（▲1.6）
- 読書は好きですか（▲1.3）
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む、教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（▲1.3）

※30分以上の割合を全国の数値と比較しました。

- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（▲0.7）
- 新聞を読んでいますか（▲0.5）



本課題の改善策については、P30へ

(6) 中学校

①「学びを深める授業づくり」について

分析結果

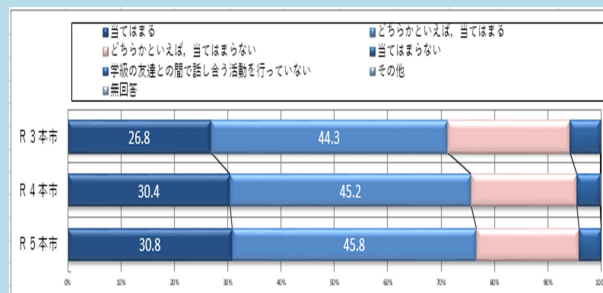
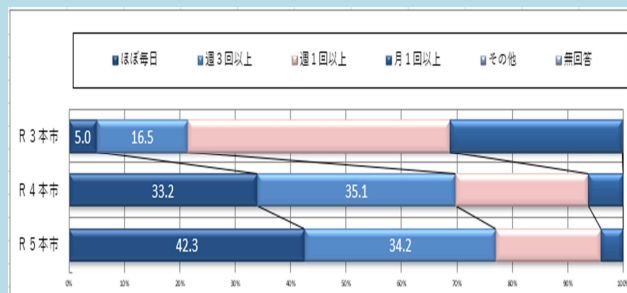
- 44質問項目中、18項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」などの9項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、5項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「数学の授業の内容はよく分かりますか」などの3項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。
- 正答数の多い生徒は、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と思っている割合が高い傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか（96.2%）
- 国語の勉強は大切だと思いますか（93.6%）

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

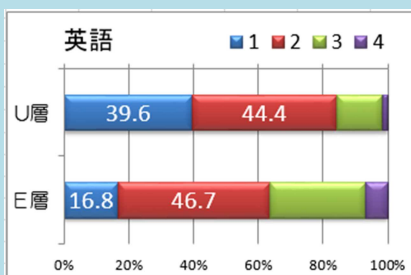
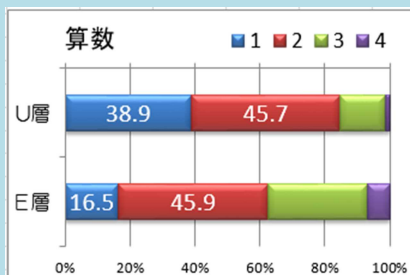
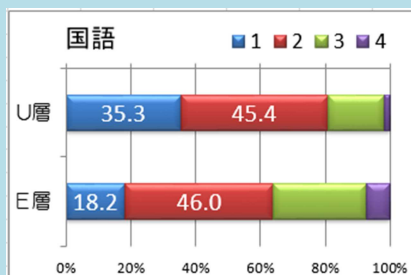
- 1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※週3回以上～ほぼ毎日を肯定的な回答としました。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか



正答数の多い児童（U層）とそれ以外の児童（E層）とのクロス集計

- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 当てはまる | 2 どちらかといえば、当てはまる |
| 3 どちらかといえば、当てはまらない | 4 当てはまらない |



本課題の改善策については、P27, 28へ

②「落ち着いた学級づくり」について

分析結果

- 12質問項目中、8項目において肯定的な回答が高い割合を示し、肯定的な回答が低い割合を示す項目はありませんでした。
- 3年間の経年比較では、「自分にはよいところがあると思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」などの3項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（98.7%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（95.6%）

本課題の改善策については、P29へ

③「望ましい学習習慣づくり」について

分析結果

- 10質問項目中、2項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「新聞を読んでいますか」などの5項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、肯定的な回答が増加傾向にある項目はありませんでした。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」などの4項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

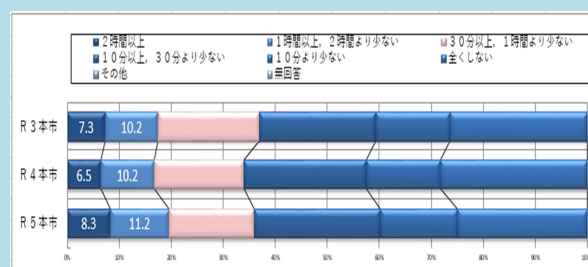
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（91.8%）
- 朝食を毎日食べていますか（88.4%）

肯定的な回答が全国の数値を下回った質問項目

※（ ）内の数値は、全国との差を表しています

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（▲4.0）

※2時間以上の割合を全国の数値と比較しました。



- 朝食を毎日食べていますか（▲2.8）
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（▲2.5）※3時間以上の割合を全国の数値と比較しました。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（▲2.2）
※この質問項目については、月に1～3回程度以上の割合を全国の数値と比較しました。
- 新聞を読んでいますか（▲1.4）
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（▲0.4）

本課題の改善策については、P30へ

5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策

課題の改善策 1

学びを深める授業づくり

ICTの活用による学習内容の確実な定着を図る授業改善

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：ICTを活用した学習状況、授業改善

- 「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、小学校、中学校共に肯定的に回答している割合が全国を上回りました。
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について、小学校では、肯定的に回答している割合が全国を下回り、中学校では、3年連続で減少傾向にあります。
- 個に応じた指導（指導の個別化）を意識しながら、自己の学びを調整できる授業改善が大切です。



ICT機器を活用して、考えをまとめたり、話し合ったりすることには随分慣れてきたけど、学習内容を確実に定着させるための「個に応じた指導（指導の個別化）」を行う際、大切にしたいことは？

こんなふうに思うこと、ありませんか？



教師が、児童生徒の学習の成果を的確に捉え、指導の改善に生かしたり、児童生徒が自らの学習を振り返り、次の学習に生かしたりする指導と評価の一体化を図ることが大切です。また、児童生徒が、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成し、学習内容の確実な定着に向け、授業改善を図るとともに、児童生徒の情報活用能力の育成や、校務DXを推進する視点をもって取り組むことも必要です。

学習内容の確実な定着を図る視点

1 指導と評価の一体化

○まとめ、振り返りの指導の工夫として、ドリルパークやGoogleクラスルームなどの学習履歴を活用し、教師の授業改善につなげます。

- ・「ドリルパーク」を活用して形成的な評価をする
→学習のまとめの場面で、「ドリルパーク」を活用し、児童生徒がどの程度理解しているかを確認します。即時に結果が表示されるので、誤答の把握や改善の機会が生まれます。
- ・「学習履歴」を活用して振り返りを位置付ける
→学習の振り返りの場面で、「学習履歴」を活用し、児童生徒が自ら学びの進捗状況や学習内容がどの程度身に付いているかを確認します。自分の学習について振り返り、よりよい学び方を考える機会が生まれます。



国立教育政策研究所HP
「指導と評価の一体化」



ICT活用ポータルサイト
（北海道教育委員会）

2 個に応じた指導（指導の個別化）

○ミライシードの活用や児童生徒自らが学習の進め方を決めるなどの重点的な指導や指導方法の工夫により、指導の個別化を図ります。

- ・「ドリルパーク」を活用して習熟度に応じた問題配信をする
→ベーシック問題（A1ドリル※算数は小学4年生以上）を活用することで、児童生徒が習熟度に応じた問題に取り組むことができます。また、誤答の場合は定着に向けての問題に取り組むことができ、自らの課題克服に向けて取り組むなど指導の個別化を図ることができます。
- ・児童生徒自らが学習の進め方を決める
→課題の解決に向けて、児童生徒が自ら自分に合った学習の進め方を選び、活動することができるよう指導の工夫が必要です。インターネットでの調査、学習支援アプリ等を用いての協働学習、多様な表現方法など、学習活動にICTを加えることで、指導の個別化を図ることができます。



旭川市ICT運用・活用
プロジェクトチームHP

3 ICT活用事例

○自分の考えを表現する手段として、Googleアプリや、端末にインストールされているさまざまなアプリを活用します。

- ・スプレッドシートを活用して家庭学習の振り返りをする

→家庭学習を取り組んだ時間や振り返りを記録していきます。教師は、家庭学習の取組状況をチェックしたり、努力している様子を励ましたり、アドバイスをしたりするなど、指導に生かすことができます。

- ・各種アプリを活用して探究活動をする

→家庭学習や長期休業等を活用して、自ら課題を見付け、解決に向けた情報を集めたり、結果を整理・分析したりするなど、自分の考えを導いて表現する探究活動を行うことができます。



文部科学省指定事業
「北海道旭川一学校DX」

タブレット端末を効果的に活用することにより、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、児童生徒が自分の特性や学習進度、学習到達度に合わせ、学習を調整していくことで、学習内容を確実に定着させることができます。



コラム

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）

MEXCBTとは、児童生徒が学習端末を用いてオンライン上で学習やアセスメントができるシステムです。本市では、学習eポータル（L-Gate）から利用することができます。MEXCBTでは、国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題に取り組むことができます。

なお、令和6年度から、全国学力・学習状況調査に参加する際には、MEXCBTを活用する予定です。

北海道教育委員会「ほっかいどうチャレンジテスト」

令和6年度の4月に行われる「前年度問題」からMEXCBTへ完全移行します。今年度は、MEXCBTを活用した試行実施も行われています。

「校務DX」とは

令和の日本型学校教育における学校の働き方改革を実現する上で「校務DX」は大きな役割を果たすことになります。紙ベースの分掌業務から、個人情報に配慮しつつ、クラウド環境を活用した「ペーパーレス」「共同作業」等、効率的な業務フローが可能となります。また、場所を越えたコミュニケーションが可能になるため、勤務校にしながら様々な研修活動が可能となります。



GIGAスクール構想の下での校務DXについて
（文部科学省）

「校務DX」の実践事例

【旭川市立大有小学校の取組】

- ・スプレッドシートを活用した特別教室予約表

→各特別教室の使用状況をタブレット内ですぐに確認できます。空いている教室があれば、その場で予約でき、該当学年に確認を取りに行く必要がなくなり、時間短縮につながっています。

- ・スプレッドシートを活用した下校班一覧

→集団下校の際に、職員室まで来て名簿に朱書きする必要がなく、タブレット上で名簿の編集・管理ができます。

【旭川市立緑が丘中学校の取組】

- ・Googleサイトを活用した進路情報の共有

→進路通信の配付をやめ、Web上で情報発信や学校見学等の申込みを行っています。スプレッドシートへの記入のみで印刷も不要となり、情報発信が効率的にできます。

- ・Googleカレンダーを活用した日程の共有

→進路業務等の日程を共有しています。変更が即座に反映されるので、いつでも最新の日程を確認することができます。

学校全体で取り組む安心して学べる環境づくり

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について、小学校では、肯定的な回答の割合が全国を下回りました。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」については、小学校、中学校共に肯定的な回答の割合が全国を下回りました。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について、小学校では、肯定的な回答の割合が全国を下回りました。
- 互いの考えを深めたり、広げたりするためには、良好な人間関係づくりを持続することや小・中学校の接続に配慮した学習規律・情報モラル教育等の規範意識を高める工夫が大切です。



「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思えるような場面を増やすには、ICT機器の活用も一つの手手段だけど、トラブルが起きそうで心配…

こんなふうに思うこと、ありませんか？



児童生徒にとって、学校や学級で安心して学んだり、仲間と対話し、協働しながら学んだりするためには、教師や仲間から意見等が褒められたり、認められたりすること、気持ちの変化や行動に共感を示されたりすることが必要です。また、児童生徒の規範意識を高めるため、児童生徒が自分の行動の理由や社会と自分自身との関わり方を客観的に分析できるよう、教師と一緒に考えることも必要です。

自分の良さを認識し他者を尊重するための視点

1 人間関係づくりのための工夫とICTの活用

○各教科等において、協働学習アプリケーション（オクリンクなど）を活用し、多様な意見を引き出し、認め合い、共感し合いながら学習を深める工夫をします。

- ・意見交流する場面や機会を設定する
→協働学習アプリケーションを活用して、児童生徒間の意見交流を促進するとともに、互いに共感し合い、学習意欲を高めます。
- ・異なる考えが組み合わさる良さを価値付ける
→1つのボードに付箋を貼り付けたり、手書きで絵を描いたり、写真や画像を貼り付けたりして、同時に複数の意見を書き込むことにより、多様な意見に触れ、他者の意見の良さに気付いたり、自分の考えを深めたりすることにつながります



国民のデジタルリテラシー向上事業（活用教材）について（文部科学省）

2 「情報モラル教育」の充実

○他者を尊重することをはじめ、情報社会で生きていく上で必要な「情報モラル」についてのポータルサイト等を活用して学習を深めていきます。

- ・情報モラル教育ポータルサイト（文部科学省）を活用する
→情報活用能力の重要な要素である「情報モラル」の学習コンテンツや啓発資料、授業実践や活用事例等について、動画を使い、分かりやすく解説しています。
- ・事例で学ぶNetモラル（広教）を活用する
→「ネットいじめ」「依存」「なりすまし」「動画投稿」などの問題に対応した事例や、ネットワーク社会に関する問題点や適切な活用方法などについて、アニメーションを使い、分かりやすく解説しています。



情報モラル教育ポータルサイト（文部科学省）

ICT機器の正しい使い方や情報モラルを学ぶとともに、ICTを活用した児童生徒間の意見交流を積極的に行い、多様な意見に気付いたり、学習意欲を高めたりすることが必要です。



学校と家庭の共通理解に基づく効果的な家庭学習の取組の工夫

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：基本的生活習慣等，学習習慣，学習環境等

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」については、小学校、中学校共に、肯定的に回答している割合が全国を上回りました。
- 「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」について、小学校では、平日の「1時間以上」の割合が経年比較で減少傾向にあり、休日の「2時間以上」の割合が全国を下回り、中学校では、平日の「2時間以上」、休日の「3時間以上」の割合が全国を下回りました。
- 児童生徒に望ましい学習習慣を身に付けさせるためには、学びを深める授業づくり、落ち着いた学級づくりとの関連を図りながら、学校と保護者が連携し、学習意欲の喚起や学習時間の確保、また、それらを持続させるための取組を工夫していくことが大切です。



「生活リズムのチェックやLSシートの活用は続けてきたけれど、より効果的に学習習慣に結び付けることはできないかな?」「タブレット端末の持ち帰りに向けて、家庭の協力や家庭学習の出し方の工夫も必要だな…。」

こんなふうに思うこと、ありませんか?



家庭における、望ましい学習習慣の確立に向けて、学習計画を立てて見通しをもたせるとともに、児童生徒に必要な感をもたせる家庭学習の提示を工夫することが大切です。

また、児童生徒が目的意識をもって家庭学習に取り組むためには、家庭学習の取組について情報を提供するなど、保護者と連携して推進することが必要です。

児童生徒に必要な感をもたせる家庭学習の視点

1 家庭学習の課題提示の工夫

- 授業とリンクした家庭学習の課題提示を工夫する
→授業中の「〇〇について調べる」、「レポートにまとめる」などの活動を家庭学習にすることで、授業において、全体交流や集団解決場面の時間の確保ができるとともに、協働的な学びの充実も期待できます。
- 個々の学力や実態に応じた内容や課題にする
→A Iドリル等を課題として、取りこませる課題の分量や内容を調整することで、児童生徒の実態に応じた学習を進められます。
- 小中連携の下、組織的に取り組む
→中学校区で連携し、学習時間の目安や内容等について共有することで、9年間を見通した児童生徒の目指す姿に向けて、組織的に取り組むことができます。



「旭川市学校教育情報化推進計画」

2 タブレット端末の持ち帰りに向けた保護者との連携

- 家庭への持ち帰りに係る情報を発信する
→学校での端末活用の様子や、家庭へ端末を持ち帰った際の家庭学習の取組を学校だより等により発信する、学習サイトの活用方法や有効性、家庭での使用範囲などの情報を提供するなどして保護者との連携を図ります。
- 家庭での使わせ方などを想定して、ルール作りの準備をする
→LSチェックシートや生活リズムチェックシートなどを活用して使用時間を意識させるとともに、健康面や管理上の配慮事項などのルールを準備しておくことで、家庭への持ち帰りと保護者との連携が円滑に進みます。



「北海道旭川一学校DX」

目的意識をもたせ、ICT活用を含む「個に応じた家庭学習の取組」を工夫することで、学習意欲の向上と学習習慣の定着が期待できます。



おわりに

「調査結果報告書・指導の改善策」,「旭川市学力向上授業ポイント集」及び「旭川市学力向上学習プリント集」は,次の皆様に御協力いただき,作成しました。

御協力いただきました旭川市授業力向上プロジェクト各チームの皆様に心から感謝を申し上げます。

旭川市授業力向上プロジェクト 国語チーム

委員長：千葉 昌之(永山西小校長)
副委員長：石川 憲一(新富小教頭)
成田麻友子(春光台中教頭)
委員：蛭名 樹里(高台小教諭)
西山あずさ(永山小教諭)
高橋 孝明(旭川第3小教諭)
岩城 卓也(明星中教諭)
嶋田 剛(神居中教諭)
椎名 俊文(神楽中教諭)
狩集 慶一(緑が丘中教諭)

算数・数学チーム

委員長：千葉 雅樹(広陵中校長)
副委員長：武田 要(日章小校長)
高綱 智美(神楽中教頭)
委員：花本 明典(永山西小主幹教諭)
岡田 哲(緑が丘中主幹教諭)
櫻井 里佳(知新小教諭)
須郷 純弥(北鎮小教諭)
金川 一代(近文小教諭)
中佐藤一徳(北門中教諭)
小幡 俊夫(東光中教諭)
廣野 裕介(緑が丘中教諭)
青木 俊也(永山南中教諭)

理科チーム

委員長：上原 大岳(東光中校長)
副委員長：五十嵐 徹(朝日小教頭)
進藤 貴史(東明中教頭)
委員：馬場 大輔(神居東小主幹教諭)
藤橋 真臣(永山南小主幹教諭)
戎谷 義明(啓北中主幹教諭)
加藤 久貴(朝日小教諭)
中野 健(永山小教諭)
島野 夏美(西御料地小教諭)
田中 秀平(永山中教諭)
森 憲児(東鷹栖中教諭)
新井 崇仁(愛宕中教諭)

英語チーム

委員長：鎌田 昌記(共栄小校長)
副委員長：布施 朋子(愛宕東小主幹)
井上 祐司(神楽中主幹)
委員：本庄奈津美(旭川小教諭)
井澤 広美(北光小教諭)
下谷 祐樹(愛宕小教諭)
伊東 靖彦(永山南中教諭)
橋本くみこ(東明中教諭)
西崎 雅俊(忠和中教諭)

学習習慣・生活習慣改善チーム

委員長：中島 圭介(旭川中教頭)
副委員長：榊本 智史(愛宕小教頭)
太田 貴幸(永山南小教頭)
委員：千葉 操(東五条小主幹教諭)
上村 純一(旭川第3小主幹教諭)
蛭名 伸也(永山南中主幹教諭)
村田 靖彦(愛宕中主幹教諭)
平野 尚人(大有小教諭)
佐藤 太一(広陵中教諭)

(敬称略,職名は令和5年11月現在)

この他,本調査結果報告書等の全般にわたり,旭川市教育委員会において以下の者が担当した。

品田 幸利	旭川市教育委員会学校教育部長
末木 良典	旭川市教育委員会学校教育部次長
工藤 秀敏	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主幹
白石 真	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
忠海 盛弘	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
竹中 一三	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
小山和歌子	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
柳澤 麻弥	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
沼澤 和範	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
森 走平	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
栄 耕平	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査